

「WECやまがた」の活動 ~outcom& destination~

令和7年3月



WECやまがたとは、Welfare Employment Conference of YAMAGATAの略で、山形県の介護・福祉雇用対策に関する関係機関6者、（山形労働局、ハローワークやまがた（人材確保・就職支援コーナー）、山形県福祉人材センター、介護労働安定センター山形支部、山形県ナースセンター、山形県健康福祉部高齢者支援課）の構成による連絡協議会の愛称です。

①愛称の活用



WECやまがた (Welfare Employment Conference of YAMAGATA) 堅苦しいものではなく、スタッフが愛着を持ちやすく、かつ、取り組む事業を周知しやすく、広く一般から覚えられやすい名称をとスタッフの総意により決定。また、左記のロゴを作成し、親しみやすいイメージを表しました。共働しく関わる事業はすべてこの愛称の旗印の下に行っています。

②連絡会議「WECやまがた」の開催

各機関の「担当者」をメンバーとして月1回の連絡会議を開催しています。フリートークを主体にし、議論の課程から見てくることを事業化していくことが狙いであり、それがWECやまがたの推進力となっています。

③介護の日（11月11日）の取り組み



年に一回の大規模イベントとして「介護の日」に合わせ「福祉のしごとフェア 就職面談会」を開催しています。アイデアを出し合いながらWEC関係機関の各種事業を協働展開することでのスケールメリットを活かしています。

この「介護の日」に合わせた大規模な取り組みは、県内各地へと広がりを見せており、これ以外でも労働局及びハローワークが主催する各種面談会の際には、介護・福祉業界特有の課題に対処するために、WECやまがた構成機関として名を連ね、各種相談ブースや資料コーナーなどを設置しています。

広報についてはテレビやラジオ番組を活用し、介護業界の現状や魅力を発信。特に「介護の日」期間中は特集形式で、地域の介護施設や成功事例を紹介する取り組みを行い、介護分野での働きやすさや生産性向上をテーマに県内介護事業所の取組みに関する情報を提供するとともに、人材確保対策コーナー等ハローワークの支援サービスを周知しました。

④介護就職支援冊子の改訂・増刷



就職支援ツールとしてこれまで5冊の小冊子（第1弾「いっしょに介護」、第2弾「みんなのかいご」、第3弾「かいごですすめ」、第4弾「介護職10のギモン」、第5弾「となりのかいご」）を発行しました。これから介護の仕事を目指そうとする方や興味をお持ちの方、現在介護を仕事としている方、そして介護を提供している事業所の方など、介護の仕事に関わるすべての方々に、介護の魅力についてより理解してほしいという願いを込めています。

今年度は改訂版として新たに「介護労働講習」のページを設け、職業訓練受講促進に向けた取組を強化、また福祉のしごとフェアに向けて増刷しました。

本冊子は、窓口での配布のほか、各種イベントの機会を通じ活用をはかっています。また、本冊子の制作過程においてスタッフ自らが関わり、取材先に同行することで、取材先の事業所やそこで働く方々から貴重な情報を得ることができ、それも各機関（担当者）にとっての財産となっています。

⑤「拡大WECやまがた」の開催

これまでの開催内容を見直し、共通テーマをもとにディスカッションに重点を置いた会議を展開しました。具体的には、WECやまがたを基盤に、さらに参加対象を拡大した「拡大 WEC やまがた」を開催。第 1 回目は介護分野の第一人者である茨城キリスト教大学 菅野雅子准教授を招き、「生産性向上」をテーマに議論を展開。地域課題の解決と、県全体の方向性を模索する場として実施しました。第 2 回目は福祉・介護分野における課題と実情を共有するとともに、令和 7 年度事業の意思統一を図った。（県内介護事業所を含む全 31 団体が参加しています）